

まえがき

私は昭和四十六年生まれ、サラリーマン家庭に育ち、大谷大学文学部哲学科を卒業後すぐ、京都府南丹市美山町に移り住み、茅葺き職人見習いになりました。平成六年の春でした。

当時、二十歳代の茅葺き職人は、私を含めて全国に三人しかおりませんでした。当時の世間の風潮は、茅葺きは滅びゆくものというイメージで、職人は日雇い労働者と同じようにとらえられていました。大学卒業を控え、親、親戚、友人全員から反対され、「これから茅葺きはなくなっていくのに、なんで職人になんかなるんや。アホとちゃうか」と言われました。

そんな反対を押し切ってまで、なぜ私は茅葺き職人になったのでしょうか。なぜ、今まで続けてくることができたのでしょうか。実は、自分でもわからなかったのです。しかし、二十数年が経過し、わかってきました。一人の青年が無鉄砲に茅葺き職人

の世界に入り、そこで見たり感じたりしてきた軌跡を通じて、茅葺きのどこがいいのか。なぜ日本人は茅葺きをつくったのか。我々になぜ茅葺きが必要なのか。実は、世界の人人々に壮大なメッセージが隠されている。そのことを皆様に感じていただき、皆様と一緒に未来に茅葺きがある世界を創造したいと思えます。

ようこそ、茅葺きの世界へ。

平成三十年四月八日 西尾晴夫